



舞曲扇林

坤

特別
子13
4717
2



事なり

○舞のまにあつては藝はさる下と極なり
けしあゆ村とよふおれおれなりと極ひま
まろしにむあつてはおれおれなりと極ひま
おれおれなりと極ひまおれおれなりと極ひま
たしあり中みある他物とよふ極ひま
とよふ和志方ある極ひまおれおれなり
けしあつては藝はさる下と極なり
せむしと極ひまおれおれなりと極ひま

知事か自慢もく聲は一人あつたり
よ地乞おれおれなりと極ひま
色はさるおれおれなりと極ひま
きしあつては藝はさる下と極なり
とよふ和志方ある極ひまおれおれなり
けしあつては藝はさる下と極なり
せむしと極ひまおれおれなりと極ひま
を家かさるおれおれなりと極ひま
藝はさるおれおれなりと極ひま

ゆふくくらぬわらふし

○又云なほも暮らちもくもらんあましく

とゆらぬしつらう又らしたあくもゆらぬ

あり是れおのより結分別と合ふ事し

ふ知くつらぬし

十六 程拍子し

○後乃み程しふ事ととわ程と拍子

合しと離れに合まると行時ハさう二

にあり拍子た月く安く程ハ流りし

程成高しんハ熟まると幸と二海へ舟とんぶ

是成流りふり二つあくとつりつた。二是れ

を七是れと前作とあは是程成高しんハ自

ハ成まじふ事にはともとるりもくもくも

前作ありともまじせつと交まるとんハいそ

ハ一見ハくもるも一是れ成高しんハ

わのハ奇ハまじるとしと程成高しんハ

はのくせつしとつたもくもくも

ぬくぬく程拍子成高しんハ奇

まゝ同意如くし

北出権左衛門 着山あゝ

○是種をとりしは海へてなるを魚と稱す
其の如くと拍子板結成は目次をみるに
和作をまのりて際ありとてまをて自ら
をうたひ和作に移しては成りては是
舞をうたまふことと進んては世に名成
らるるやと舞とまのり合せんと成る
るるやと

九 程拍子数用

○夫の教ハ七ツまゝハ極りわら八ツと
いひくは舞臺とて成八ツと奉承と
或ハ子代ハ八ツ代といひ或ハ使役ハ八ツ代
行素と云奉承やちと成八ツと成り
てはるる魚とて次是皆舞臺とて成りては
又拍子乃元ハを數れ極八ツと成りては
然しと拍子板刻かしとて拍子七言八言
必言八言まゝと能得とて前法八言と



是發陽為若此種或合よと六十四卦
成高の八卦をたてよと

○拍子乃極八つと云りゆん比れる拍
子めと指或打その極を流るる八つは打
切乃るもゆん比れるゆん八つはれと
そなるもゆん比れる八つは刻かしくと
片比おろりと刻かしくりり二つは八
ゆん比れゆん比れ是れゆん比れと
半

○又云何れ拍子或脈をりしよ六脈よ
虚実をく八つは脈も同何れは
脈をりし遠ふよゆん拍子

○又云脈拍子或平為れ拍子の佛大なる
御のり八つは倍し倍倍しゆん事はゆん
とゆん八つは倍かしよゆんばけ脈拍子或平為
ゆん拍子ゆんゆんゆんゆんゆんゆんゆん
し拍子此數用八つはゆんゆんゆんゆん
是れゆんゆん又八つは刻かしくりり八拍子

らん

紅乳

○毒成志ふりり子成かむりり
おしりおしり紅乳よんは
ゆるおちあふりし聲雅み依るま今
毒のつらさ子乃事柳おゆみ紅乳より
あつらふり月花をさるるも毒
乃の志事かく目よするこも
甘はらぶかにかつらぐく移るり

しにちあふりり
おしりおしり紅乳よんは
ゆるおちあふりし聲雅み依るま今
毒のつらさ子乃事柳おゆみ紅乳より
あつらふり月花をさるるも毒
乃の志事かく目よするこも
甘はらぶかにかつらぐく移るり

勿傷し工事をなすべし
中村傳の御札の事
わづら思物と稱する
を一万に心づくる事

其二 二横是見

○和作の事
業よりの御札は
世に傳ふ事

おぼしき御札
毎のひせり
能くんご意
くみさるる
御札にせり
り又御札
とんよう
分別せり

うくまらる者乃心付わしめと成らんく
らぬ魚よりし狝聲考之振舞にせたり
んハ物カシ

證據

中村傳の弟 中村七郎

村山四郎左衛門 山川彦左郎

宮崎傳吉 多川園十郎

花井サロウ

是皆此の事と云ふにせむるものなり

舟が天竺乃海に流るるを急ぎ又を
くじおのく一流くを世とみ成れ
るなり

坊主小集

○是より心おみり流儀か小集
轉じ海より坊主乃とく膚を何に
一ふりききしゆりし後け風儀
もたれし色塔まのめく始終功を
あり



おののみあし

おのゆきあし

おのゆきあし



おのゆきあし

おのゆきあし

おのゆきあし



或ハ融とろのそ良業平あきらむらをいひこもりりま
めはせしむるものごとくめいめい
ごころたぬりしにげん鷹たかがうわらふ
事こともあはく美みしふみめく幸さいふけ
てもあはくははるる人ひとなりしは
ねま成なりて一実ひとなる人ひとなりし
中村なかむらの氣きづりしめくまを
かくまも實まことなりしめくわら
まをいひしはるる人ひとなりし

二二二

中村敷子 さるる水みづらう

鹿川しかがわ七十郎 美み河がわとみ

坂東ばんとう又また左さ郎

○十月じゅうがつ乃のち此こゝより前まへとれ着きる方かたありし
解とを忘わすれしとと實まことありしと
もいふなりしと実まことなりしと
松崎まつざき中なか孫まご
○系けい大だい改かい志しのねまはし
る人ひとなりし

是是繁くしつふ意ゆ感任むふふ

廿五

江戶歌作者

玉井指八

南瓜半慈氣

宮崎傳者

市川團十郎

○各級向分て工神委乃て是後
能くえぬ今一担云又たより
涌す又まより功をぬかり急て功を
実根を藝志も中なるるる

廿六

と極意を来事知

傳十郎

拍子付

と極意を不作為

三味線

拍子付

と極意を相方位

指八

○是右来乃事我亦傳者
と或和して去るをわゆる人の唱
聲、拍子に拍り御音之法乃音、能
り、又はく、つまむ色熟して何
次曲も、秋や雲地風ぬり、こ
るくし是らより、又も心成發



く竹匠たるものいねの匠竹匠なる
能わいねの匠なるものいねの匠なる
寺の余何そ一流を工おこしん現下
藝哉

廿七 江戸系大坂芝居元始

兼し此方北根元

○紫連とてそのい系同系村山又系芝居
の時松竹なるものいねの匠なるものいねの匠なる
かしく建たむましく小細工小系とるもの

み池のしむ早のいあつていなり
まの持りしものいねの匠なるものいねの匠なる
中よあ来くものいねの匠なるものいねの匠なる

○當右傳の芝居乃時大坂の芝居
いねの匠なるものいねの匠なるものいねの匠なる
あ来く又持りしものいねの匠なるものいねの匠なる

○ちよとる席方いねの匠なるものいねの匠なる
風俗よくあつていねの匠なるものいねの匠なる
倍のいねの匠なるものいねの匠なる

殺しつゝるふ麻方あつたあけらそ事しふあ
緝のきいふしあそく惣詰まけ相見ぬあは
らるるし

○稽うつ分活よさるるあしとつゝなめ

さるるあそ他は望めくハ中村大物うえ

○石戯と衣付一始ハ西塔あめくし是

大坂あそあうあそ華枝の後塔をぬあ

とそ大坂あそ長の始あしと侍よあめくあ

しり

○又さうけ此廣袖をまきく茶とうつく

くまらるハ坂あそあう始あしそわさうけ

皆お終結をうつくとくさうあそあ

そわさうあそあそあそあそあそあ

しり

○あ女方同あ気方始ハ依原橋ああ

乃時乃原あ水原をう始うあああ

始ああああああああああああ

まきさへいしくつまは娘とすんかゝる

あ

○ 拙者わがしの娘むすめは右みぎより作つく馬うまを分わか親おや目め本もと

傳つた分わかしとわが小こ葉はをい氣いき松まつ中なからるると

小こ葉は庄ぢやう登のぼりし

○ ぶるりぶるりとこれ拙わが者しをい中なか村むら勅とく之の法はふ儀ぎ

宗そう月げつ是こゝろ娘むすめと

○ 小こ舟ふねに傳つた保たも破やぶれた事ことをい松まつと

と娘むすめといふいふ事ことをい松まつと

いふ娘むすめより右みぎより全ぜん目めをい

傳つた分わかしとわが小こ葉はをい氣いき松まつ中なからるると

しハ又またをい松まつと

○ 小こううとハ右みぎより全ぜん目めをい

の風かぜ成なり松まつと

中なか村むらののと

○ 和わ方かたにハ右みぎより全ぜん目めをい

娘むすめといふいふ事ことをい松まつと

事ことハ右みぎより全ぜん目めをい

○ 慈母ハキレ風ハ氣ニシテシテ娘ナシ

○ 若クモ古クモ長サリ娘ハシラハ六ノ御井

糸ハ他方村行ニ懸法名傳心是娘ナシ是方

若クモ古クモ長サリ

○ 伊豆草花ニ嫁リハ村山若クハ中村勘ラ

村山又ラ是方草花ニ嫁リハ中村勘ラ

○ 糸草花ニ嫁リハ村山若クハ中村勘ラ

中村勘ラハ大志志ニシテ是方草花ニ嫁リ

ナリ

○ 大娘草花ニ嫁リハ村山若クハ中村勘ラ

糸草花ニ嫁リハ村山若クハ中村勘ラ

中村勘ラ

○ 敵役 実多クハ 古来ニテ事ナシ

從一ニシテ狂言ハ人買ハ善美アリテ然

人ナリ故ニシテ敵役ニシテ是方草花

以テ是方草花ニ嫁リハ村山若クハ中村勘ラ

糸草花ニ嫁リハ村山若クハ中村勘ラ

中村勘ラハ大志志ニシテ是方草花ニ嫁リ

あるはねがかりては後実の仕とて後人
を格より実の仕和をせしむる
後ハいつも悪人をり致れは後さき
續行云とて思はれし

八 伊勢踊娘

○伊勢がどり此娘ハ怒ドて躍らんぬ
あり竹首ハ秋ノ季をうらむくおどり
しが後ハ雨乞かゝの及よおどりの

伊勢がどり此拍にありしとて和
略ししるるは雨時伊勢ハ山田人
桂門下ハ美男ありとてハ系部
とてはれありとて男ハ五奇ハとて
奇ハとてとて人ありとて五奇ハ五
人ハ女子南条橋本ハ山田ハ山田
た依んてとてとて伊勢ハ山田
桂門下ハ美男ありとてハ系部
系部ハ伊勢ハ山田ハ山田ハ山田

山吹流しめ身おそまのり
の書もあつたま
らもあつたよみまうりあ
けしものなる
光山吹流ししゆ宿を寂
らるとしつ
らわのしきふ

光いぞけり山吹さる
ま移るしんれ

あきりもんうらうら
ひら成流にるま
とを
な中めくうらふら
ら

うらうらゆくとぬ
まあまらるる

福さめあまれら
しうらひあま

うらうら

跋

夫^え之^う系^ふれ^に二^ト字^ハハ^ガ菩^サ薩^方便^乃音^系
らうら

琵琶^ひ琴^{きん}
琴^{きん}并^{びやう}
威^い南^{なん}篳^ひ篥^{せき}

和^わ琴^{きん}
横^{よこ}笛^{てき}
笙^{せう}笛^{てき}

可^{とげむらき}期^{まき}と^まの^あ花^あ又^あは^あ書^あい^あも^あを^あ行^あく
 リ^あく^あも^あお^あさ^あい^あく^あも^あ前^あり^ある^あ事^あも
 侍^あは^あ君^あ事^あも^あ又^あは^あ形^あの^あ扇^あ小^あ部^あと
 子^あ本^あり^あ番^あ頭^あ一^あ人^あ

他者

河原崎權之助

アサキ

アサキ

